

## ■今月の特選句

2017年9月

**カート押し妻の後ゆく羽抜鳥**

青木輝子

妻の付け人のように、妻に附かず離れずカートを押して行く夫は、いわゆる「濡れ落葉」で無表情。羽というより、魂が抜けているみたい。

**馬鈴薯のえくぼカレーに埋もれたり**

有富洋二

「どうでもいい」事が気になる。これぞ滑稽の原点である。世間のご立派な俳人がおしなべて注目な事に滑稽はない。馬鈴薯のえくぼよ万歳。

**サングラスかけて態度のでかくなり**

村松道夫

普段は言いたいことも言えない気弱な自分が、サングラスをかけたとたんに饒舌に。うっかり余計な事までペラペラ。俳句は自身を俎上に載せて詠む。

**うちのことさらされ夏休み絵日記帳**

山本 賜

子どもは秘密にしておくべきことの判断がつかない。正直だから全部書いてしまう。おそらく将来は、週刊文春か週刊新潮の記者になれるね。

**茗荷汁好きでアルツハイマー論**

越前春生

茗荷と物忘れの関連は俗信。お釈迦様の、物覚えの悪かった弟子のお墓に生えていたことに由来するとか。釈迦曰く、悟りと記憶力は関係なし。

**遅くなってごめんね田水この位でいいですか**

鈴木和枝

俳句は情景がわかる、これが基本である。早続きでからからに乾いていたのだろう。作者の優しい心根がダイレクトに伝わる秀句。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

勢ひのありて噴水雲となる  
・・・その勢いを誇張して句に

稲沢進一

火蟻来て事情聴取すヒアリング  
・・・ヒヤリとさせる飛んだ害虫

荒井良明

直筆の残暑見舞の余熱かな  
・・・余熱は筆と残暑にかかる

加川すすむ

鍵穴をしっかりと守る守宮かな  
・・・言葉遊びをひろげて佳句に

久我正明

集中力失せて猫踏む熱帯夜  
・・・猫の立場で絶対嫌よ

伊藤浩睦

憎しみをどこかに隠し鳥兜  
・・・殺意の起きた時に役立つ

桑田愛子

宅急便汗の滴も置いて行き  
・・・麦茶一杯飲んで行きなよ

加藤澄子

**まじまじと鏡の中の生身魂**

・・・確かめたとて若くはなるまい

伊藤洋二

**土用三郎畑の婆を追ひ立てる**

・・・三十六計逃げるが勝ちよ

田中早苗

**深窓の奥方にして汗つかき**

・・・冷房費用結構かかる

下嶋四万歩

**雷光は軽く雷音は重く**

・・・瘦せっぽっちが怒鳴りや大声

工藤泰子

**女子寮に問答無用夜這星**

・・・逮捕できずに書類送検

高田敏男

**サイダーは泡（あぶく）を私は愚痴を**

・・・サイダー片手に泡沫候補

日根野聖子

## ■今月の滑稽句

- |  |                         |
|--|-------------------------|
| 【佳作】 豊の秋元のもくあみダイエット<br>生身魂チンプンカンのメニューかな                | 青木輝子<br>青木輝子            |
| 蜻蛉は風の道知る川船頭<br>いまし飛ぶ鮎のあまは浪の路へ                          | 青山桂一<br>青山桂一            |
| 【佳作】 すだれめく仕掛け漁法に上り鮎                                    | 青山桂一                    |
| 【佳作】 この星に毛虫と生まれ焼かれたる<br>籠枕二の四乗で終はりけり<br>ちと派手な四万六千日のシャツ | 赤瀬川至安<br>赤瀬川至安<br>赤瀬川至安 |
| 老いて耳遠くなりたる犬の夏  | 荒井良明                    |
| 【佳作】 炎昼にハードル跳びぬひらめ筋                                    | 荒井良明                    |
| 日曜もおかまいなしの蟬しぐれ   | 有富洋二                    |
| 【佳作】 花火師の操るドローン垂直に                                     | 有富洋二                    |
| ふて寝する大はんぎきのあくびかな<br>山百合の人近づけばうつむくなり                    | 井口夏子<br>井口夏子            |
| 【佳作】 ひとにぎり程の水着を持ち帰る                                    | 井口夏子                    |
| お化け屋敷大笑いする子に泣くお化け                                      | 池田亮二                    |
| 【佳作】 正座して由緒正しき鰻食い                                      | 池田亮二                    |
| みちのくの梅雨の入り明けぼんやりと                                      | 石塚柚彩                    |
| 【佳作】 暑気払いボスの電話に水さされ<br>どこもみなゆるみ下がりし六十路夏                | 石塚柚彩<br>石塚柚彩            |
| 【佳作】 とりあえず美人に見える市女笠<br>秋出水舟転覆の三途川                      | 伊藤浩睦<br>伊藤浩睦            |
| 道楽の残りはひとつ九月尽   | 伊藤洋二                    |
| 【佳作】 香を食し解夏のお腹の凹みけり                                    | 伊藤洋二                    |

夕暮れて二人は寡黙冷奴	稲沢進一
【佳作】 尺取やうしろ振り向くことはなし	稲沢進一
熱帯夜右脳左脳の熱を帯び	稲葉純子
岩倉具視髪を洗へぬまま札に	稲葉純子
【佳作】 泳ぐ子の手足は鰭になつてゐる	稲葉純子
アスファルト卵焼けさう炎天下	井野ひろみ
【佳作】 素知らぬげ隣席扇子風貰ふ	井野ひろみ
蝉の声防音ガラスを突き破る	上山美穂
【佳作】 蚊に聞かむ私の血の味いかがかと	上山美穂
哀しみの曲を唄ふや籠の虫	上山美穂
エアロバイクを降りたとたんに汗飛び散る	梅岡菊子
【佳作】 ハンモック降りても揺れてゐるわたし	梅岡菊子
焼ききびの粒をはずして地図を描く	梅岡菊子
【佳作】 朝顔を咲かせ昭和の庭となる	梅野光子
おお威張りなり山囲む雲の峰	梅野光子
夏バテの我が身にやさしき蕎粥よ	梅野光子
【佳作】 尺蠖に命の背丈計らるる	越前春生
考へて水母になつてゐたりけり	越前春生
I WANT TO 横文字多き飾り笹	太田史彩
【佳作】 包丁で切る桃いよよ口で吸ひ	太田史彩
夏場所の解説コメント痛くない痛くない	太田史彩

遠野かな胡瓜垂らして河童釣る	小笠原満喜恵
【佳作】朝八時蜂は糸瓜の蜜採りに	小笠原満喜恵
ジャッジャッジャッ早く起きろと油蟬	小笠原満喜恵
新米の味見している稻雀	岡野 満
秋風や今年の抱負あきらめる	岡野 満
【佳作】旅人の俄か踊りや風の盆	岡野 満
夏痩せて首になりたる福の神	小川鈍太
彼の世へと三途の川の虹の橋	小川鈍太
【佳作】西日濃き窓の下には神田川	小川鈍太
【佳作】放電と充電グイと新走	加川すすむ
翹雲いつこに血氣置きて来し	加川すすむ
【佳作】屋根破る雹を手にして食べようか	加藤澄子
冷房の床心地良し猫長々	加藤澄子
身は食はれ翅のみ残す鬼やんま	川島智子
みんなと朝の体操合体す	川島智子
【佳作】これほどの真紅はあらじ蛇莓	川島智子
【佳作】訳ありの西瓜の玉の叩き売り	久我正明
噴水は上下左右を巡る旅	久我正明
【佳作】青天の霹靂としてはたた神	工藤泰子
神鳴りの御威光届くお膝下	工藤泰子
【佳作】青嵐百合子グリーンに都の染まり	桑田愛子
秋刀魚焼く煙も走り徒競走	桑田愛子
【佳作】爆発をしさうな水着ではあるが	小林英昭
艶聞をふりまゐてをり金魚の尾	小林英昭
ででむしの離れうかがふ潜望鏡	小林英昭

胃カメラ呑みピロロ菌薬処分さる 梅雨明の雲行日毎不穏なり 【佳作】熊蟬の渾身暑さいやが上	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
蒸し蒸しをムチムチと云ふ夏の嬰 【佳作】脱衣婆の衣剥ぎ取る極暑かな	下嶋四万歩 下嶋四万歩
ひとしきり昔早乙女腰伸ばす 主役にはなれぬ神官海開き 【佳作】孫に似て頑固一徹生身魂	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】新しき湯殿の鷗尾(しび)や天の川 大旱ダムの水位を尋ねをり	鈴鹿洋子 鈴鹿洋子
絶対ゼロになれる南瓜は空に向いて咲け 【佳作】急いで咲かなくてもいい南瓜は貴方だけ	鈴木和枝 鈴木和枝
お皿にはトマトスライス肉料理 髪洗いでドレスシャツ着て営業に 【佳作】ワンピース日傘をさしてスニーカー	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】元気なし噴水にも歴史あり 打水をせよと番頭熱くなり	高田敏男 高田敏男
【佳作】重すぎて誰もかっげぬ大神輿 ゴキブリと戦う権利君に賜ぶ パラソルの梁は物干し海水浴	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
酢豚には名脇役のパイナップル 【佳作】時計草あなたはどこ生まれなの ねむの花雑木林のマドンナか	高橋ユミ子 高橋ユミ子 高橋ユミ子
心臓のチャクラの光る蓮の花 老人の文庫本手に蓮開く 【佳作】猫と蛇出合い頭となりにけり	田中 勇 田中 勇 田中 勇

【佳作】 昼寝覚め当てにならぬよ夢占ひ 昼寝覚めどこへ消えたかあの世の人	田中早苗 田中早苗
風鈴の超過勤務をぼやきをり 【佳作】 新米を砂金のごとく量りけり 南瓜切る火事場のごとき力出し	田村米生 田村米生 田村米生
滝を愛で観光客愛でるバスツアー 病室は知らぬ存ぜぬ熱帯夜 【佳作】 我が辞書に夏痩せの文字見つからず	月城花風 月城花風 月城花風
焼けに焼け酷暑地球を溶かすのか 氷河溶け陸地はいつか水の中 【佳作】 雨乞いの祭りいつかは忘れられ	津田このみ 津田このみ 津田このみ
三步後行く宿六や秋暑し 先生は一曲踊り直ぐ車 【佳作】 最後には鳥にまかせる菜虫とり	都吐夢 都吐夢 都吐夢
取り敢えず米寿の残暑見舞かな 泡盛のオン・ザ・ロックや敗戦忌 【佳作】 サングラスかけて沖縄復興相	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】 炎天に低い鼻まで赤くなり 百日紅隣の家からこんにちは 夕焼けや波間漂うウキの舞い	中井 勇 中井 勇 中井 勇
ひからびてはてなマークとなる蚯蚓 リボンてふ美しき名で蠅を捕る 【佳作】 煎胡麻の一粒はねて秋立ちぬ	新島里子 新島里子 新島里子
炎昼を蟬も鳴けずに力尽き 【佳作】 新宿三丁目粋な男の白緋 深川の古地図頼りに冷し酒	西岡幸子 西岡幸子 西岡幸子

裸子の季語に悲しむストリッパー 菴屋には勝てぬ鍵屋の遠花火 【佳作】 年金が細り何れは外寝かな	西をさむ 西をさむ 西をさむ
長崎を最後と祈る原爆忌 秋立つも気温体温競いをり 【佳作】 ジュースより蛇口はビールに限るなり	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
ハイデガーを出しし袋へバナナの皮 四股踏んでこれより妻は炎天へ 【佳作】 日傘あげバスくるまでをいれとぞ	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】 古銭ばかり遺して逝きし天の川 雲の上に落とし穴あり滝一条 朝顔の双葉が笑ふ捨て鉢に	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】 昆虫の薄羽根のごと羅は 浴衣選る千代紙選ぶごとくして	日根野聖子 日根野聖子
改革と連呼の余韻梅雨明ける 【佳作】 大前で水分補給炎天下 お通しにもっとも軽い夏料理	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
暑気払い暖簾が俺を呼んでるぜ 【佳作】 猛暑日や生きてる事を我感ず 夏瘦の期待裏切るバイキング	細川岩男 細川岩男 細川岩男
仕事も恋も何も不器用茗荷の子 背負ひたる家紋が同じ蝸牛 【佳作】 瓜番や未だ季寄せに残りたる	本門明男 本門明男 本門明男
【佳作】 何となく老いて今では木瓜の花 断捨離で古傷暴く落し文 安倍総理なんじやもんじやと夏の夜	前田和男 前田和男 前田和男
夢の中蛍を乱舞させてゐる 五千歩やウスユキソウにたどりつく 【佳作】 予定変更猛暑のせいにしてしまう	松井寿子 松井寿子 松井寿子

怪獣といわれ水鉄砲に打たる 空蟬五匹食すでもなくポケットに 【佳作】孫に囲まれやばいぞおれが生身魂	松井まさし 松井まさし 松井まさし
大雨が夏のしっぽを踏んづける 高原を夢みて夏の底にいる 【佳作】にんげんが花火も爆弾もつくる	南とんぼ 南とんぼ 南とんぼ
いつまでもとれぬ金魚の蟠り 【佳作】香水を変へてきつぱり雨催ひ 腹の虫小暑の雨にびびびびと	椋本望生 椋本望生 椋本望生
【佳作】羅をはおりてはしゃぐ古稀の女 はんざきを醜しと人言ふなかれ	村松道夫 村松道夫
【佳作】黄昏を行こか戻ろか盆蜻蛉 寝返りを打つごと寄する盆の波 向日葵に見下ろされぬし目眩かな	百千草 百千草 百千草
午後三時向日葵そつと下をむき 水鉄砲ハートにめがけ指鉄砲 【佳作】放水の頂点虹のリボンする	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】全裸にされてマネキンの夏果てる どうしても上から目線道をしえ 束の間の恋と解説夜這星	八木 健 八木 健 八木 健
草取女長靴履きて脚長し 【佳作】下駄箱に下駄無く靴を土用干し 居候宿六ともに端居かな	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】どの風と共に去ろうか桐一葉 ただ秋の湖眺め一時間 親鳥と見紛う鷹の山別れ	八塚一青 八塚一青 八塚一青
血縁の判押されしか藪蚊刺す ざる法のまかり通りて竹夫人 【佳作】毛虫焼く凄いと云ふ字にも妻が	柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生
ビヤガーデン認痴わづらふ自我礼賛 Tシャツは勝利宣言バスケット 【佳作】原爆忌それでもめごいハーフ孫	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
ひょっとして主役休演蚩狩 水羊羹空念仏に出すお布施 【佳作】墓はある墓参りせぬ次男坊	柳村光寛 柳村光寛 柳村光寛

昔へのタイムトンネルラムネ玉	山下正純
ラムネ玉コトコト子ども返りかな	山下正純
【佳作】無殺生の結界張るや蚊帳の内	山下正純
メニューみて隣席をみて苺パフェ	山本 賜
【佳作】あの人となら洗ひざらしの夏シャツで	山本 賜
【佳作】ファッションは案山子にまかせ老いの村	横山喜三郎
虫声を愛で縁先は草ぼうぼう	横山喜三郎
盆僧の赤子をあやす五秒半	横山喜三郎
土地ぐるみ夫婦に永き日となりぬ	吉原瑞雲
籬が緩み民意漏れだす野分中	吉原瑞雲
【佳作】中元やともども老いし町の医師	吉原瑞雲